VOL. 161
2022年 5月 1日発行

虹

BMT 神奈川の HP はこちら

題字：慈雲老大師（円覚寺派前管長）

■編集・発行／神奈川骨髄移植を考える会（略称：BMT 神奈川）
〒254-0042 神奈川県平塚市明石町 24-25-309 黒部設計事務所内 発行責任者／村上忠雄
TEL:090-4713-7300 FAX :0463-25-1383 https://www.bmtkanagawa.com/ E-mail:bmtnoniji@yahoo.co.jp
■日本骨髄バンク http://www.jmdp.or.jp ■全国骨髄バンク推進連絡協議会 http://www.marrow.or.jp

こうすけ君の命のアサガオ

～横浜市立すすき野中学校でいのちの授業～

2 月 25 日(金)横浜市立すすき野中学校で、同校初、道徳の時間枠で「いのちの授業」が行われました。BMT 神奈川会員山崎久美子さんの、地域に根差した活動が地元の方の目に留まり、お声をかけていただいて実現したもの。当日は日本骨髄バンクのご協力もいただき、卒業式を目前に控えた 3 年生に「命の大切さを知ってほしい」と、山崎さんのほか、当会の村上会長、移植経験者の池谷有紗さんも参加して、日本骨髄バンクや移植のことなどをお話いただきました。山崎さんのお話から一部をご紹介します。(原子)

◆娘の贈り物

私は東京生まれですが、新潟県に４０年近く住んでいました。 ３人の子どもと４人の孫は全員が東京に住んでいることもあり、昨年横浜市に移住しました。そんな私が、皆さんの前でお話することになったきっかけからお話します。

2015 年 9 月に、娘が体調不良で救急搬送され、急性骨髄性白血病と診断されました。医師の説明では、「骨髄移植でしか完治できないタイプです」とのこと。兄弟間の検査では、白血球の型が半分しか適合せず、骨髄バンクからドナーさんを探していただく方向で、抗がん剤治療に入りました。 ３０年間健康そのもので育った娘にとって、初めての病気が白血病だったことは、誰よりも本人が辛く受け入れがたいものだったと思います。

当時娘には３歳の女の子がいたので、離れて入院しなければならない状況は、怒りにも近い悔しさでいっぱいの様子でした。それでも「家族や幼い娘のために病気と闘おう！」と決意してくれたのは、彼女の母親パワーだったかもしれません。

入院中の娘の傍らで私なりに出来る事がないかを考え、たどり着いたのが骨髄バンクのボランティア活動でした。骨髄バンクを介して移植することになるなら、少しでもお役に立ちたいという一心でした。不安な気持ちで活動に参加すると、そこには元患者さんとご家族、ドナー経験者など様々な立場の方がいて、約８か月間支えてもらいました。娘にとってドナーさんが見つかる事は生きる希望でしたので、限られた時間でも娘の体調がいい時は、ボランティア活動に参加していました。残念ながら、治療途中で病気が再燃するという厳しい結果になってしまいましたが、 最後まで闘い続けた娘の姿は家族の中に今でも鮮明に残っています。

その後新潟に戻った私が、介護の仕事を始めようと目標を持つことができたことや、骨髄バンクのボランティア活動を再開できた時、いつも心の中で娘の後押しがあった気がします。

◆こうすけ君のアサガオの種

「骨髄バンク命のアサガオにいがた」では、 毎年４月に教育委員会を通じて、アサガオの種を小学１年生にお配りしています。これは、白血病で闘病していた「こうすけ君」が学校で育てたアサガオの種です。こうすけ君は、幼稚園の年長から小学１年生のほとんどを白血病との闘いで過ごし、アサガオの花を見ることができませんでした。花が咲いた時、お母さまが「命の尊さを知って

いただこう」との思いで、その種を大事に育てたところから始まった活動です。

今年は BMT 神奈川のメンバーさんにも種詰めの協力をしてもらい、3500 袋を新潟に送ることができました。新潟では、要望のある全国の小学校にも届けていて、その種は、途絶えることなく毎年どこかで花を咲かせ続けています。私が願っている「地域に根差したボランティア活動」を支えてくださっている皆様には、心から感謝しています。

娘はとても頑張り屋で私の前で泣くことはありませんでしたが、ドナーさんの骨髄液が届いた時は人目もはばからず号泣し、心からドナーさんへの感謝の気持ちを伝えてくれました。これからも娘からのバトンを胸に、元気に活動を続けていこうと思います。　（山崎）

◆生徒さんからの感想の一部をご紹介します

・今の私達には病気やドナーについて理解することしかできませんが、18 歳になった時、ドナーについて真剣に考えようと思います。

・誰かの優しさや勇気が誰かの命に繋がっていることを感じました。

・骨髄バンクに対して怖いイメージが強かったのですが、簡単な協力で多くの人を助けられると知り怖さはなくなりました。

・自分は当たり前のように学校に来て勉強をして友達と笑いあう毎日を過ごしていますが、当たり前のことは存在しないのだと感じました。

・私たちが協力していけば救える命があると考えると、骨髄バンクへの抵抗もなくなると思います。骨髄バンクのことを周りに広めていこうと思います。

～優里ちゃんが髪を伸ばす理由～

「骨髄バンクの活動と聞き、どうしてもお礼が伝えたくて」と、お声をかけてくださった方がいます。小学校のドナー登録会で出会った優里ちゃんは、この春 2 年生になりました。元気になった今、改めてご家族に当時のことをお話しいただきました。（原子）

病名は「先天性血小板減少症」。生まれた瞬間全身が青紫になり、あっという間に新生児集中治療室へ。あまりにもショックな状況に他のことはよく覚えていませんが、出産が大学病院で本当によかったと思いました。

生まれてすぐに入院だったので、思っていた子育てと違いすぎて、「面会時間を待って時間いっぱい一緒にいなくてはいけない！」という、義務なのか希望なのかよくわからない感情で、ひたすら毎日お見舞いに行っていたと思います。

経済面も大変でしたね。特別児童扶養手当等が支給される可能性があったのですが、当時それを教えてくれる人がいなかった。乳児の入院ですから毎日お見舞いに行き、仕事はできずドナーを探すにもお金はかかる。貯えは全てなくなっていました。

移植時に 1 歳 3 か月でおしゃべりできなかったけれど、小さいがゆえに体が辛くないときは、笑顔で誰よりも前向きだったと思います。いろいろなことがわかる年齢のほうが辛いかもしれないですね。

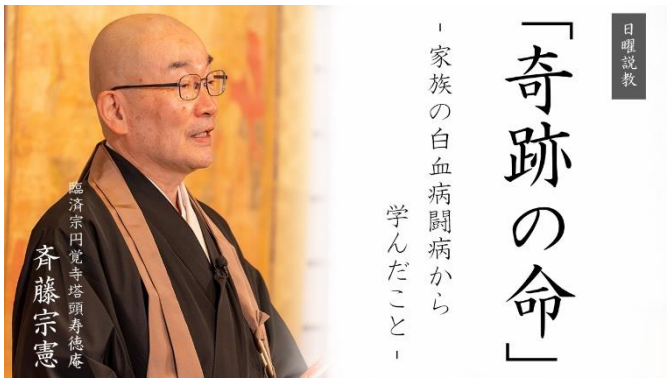
その他にも大変なことがあったと思うけど、あまり思い出せません。輸血さえしていれば元気いっぱいの娘の姿と成長が、とにかく私たちの希望になっていたので、「この笑顔は守りたい」という一心でした。骨髄バンクがなかったら今の生活があったかどうかわからないと思うと、感謝してもしきれません。もっと多くの人に骨髄バンクや移植のことを知ってほしいです。

治療や出産時の輸血で、残念ながらドナー登録や献血が出来なくなった娘と私は、ヘアードネーションをすることにしました。1 度提供した私は新たに伸ばしています。治療ですべて抜けた娘の髪は、私の意志でまだ 1 度も切らずに伸ばしていて、1 度切ったら次からは、自分の意志で髪を提供したいと考えてくれたらと思います。

そして、ドナーさんには感謝を伝えたいです。当時九州で大きな地震があったことで、ドナーさんがそちらの方だとわかりました。被災された大変な状況だったにもかかわらず、予定通り移植ができたおかげで、今の元気な娘がいます。本当にありがとうございました。

（ご家族より）

令和４年　２月２７日　円覚寺　日曜説教



奇跡の命
YouTube
はこちらから　⇒

https://www.youtube.com/watch?v=fUvs5KHcedQ&t=20s

円覚寺の境内に梅の花が咲くころ、円覚寺塔頭寿徳庵の斉藤宗憲和尚による日曜説教「奇跡の命」が、方丈とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。和尚であると同時にひとりの夫として父親として、愛にあふれたお話です。30 年を経た今だからこそ語り、その言葉はご家族と私たちのこころに響きます。斉藤和尚のご厚意により全文（一部修正）を掲載させていただきました。
なお、YouTube でも配信しておりますので、併せてご覧ください。

おはようございます！
円覚寺塔頭、寿徳庵住職の斉藤宗憲と申します
寒い中、コロナ禍、お出かけくださいましてありがとうございます。

はじめてオンラインで日曜説教を行わせていただきます。不慣れなので大変緊張しています。うまくお話しできないかもしれませんが、お付き合い願います。
便利な世の中になりました。オンラインでカメラの向こうにおられる聴衆の皆さんとつながっています。お顔は見えませんが、お話させていただきます。

本日は、私事の話をさせていただきます。
家族のことを自慢話のように語るのは、心苦しく、愚なことと重々承知していますがあえてお話させていただきます。

≪**発病**≫
ちょうど 30 年前の今日、平成 4 年 2 月 27 日に前の妻が三人の子を残して白血病で亡くなりました。37 歳でした。
亡くなる 1 年前、ふだん元気だった妻が「このごろ寺の階段を上がってくると動悸がする、息苦しい、体がだるい」と訴え、市内の病院で、検査をしてもらいました。2・3 日して病院から電話があり、血液の状態が非常に悪い、直ちに入院しなさいとの連絡がありました。
入院後、極度の貧血と正常な白血球が少ないということで、血液をつくる骨髄の検査をしました。

入院した 4 人部屋の病室で、妻の隣には中学生の娘さんが入院していました。この娘さんのお母さま関さんが、偶然にも血液の病気で、闘病中でした。この方にはいろいろアドバイスをいただき大変お世話になりました。
数日後、医師から診察室に私だけ呼び出され、骨髄の検査の結果、白血病だと伝えられました。
驚いて、頭は真っ白になりました。
とても本人には告げることができませんでした。
妻には血液の専門の病院でより精密な検査をすると説明しました。
そこで血液内科のある大学病院にすぐ転院しました。
大学病院に入院すると、すぐその日のうちに骨髄検査をしました。数時間して、私だけ診察室に呼ばれ、担当の女医さんから病名が赤白血病だと報告されました。
医師が言うには、赤白血病というのは、普通の白血病と違って、白血球だけでなく赤血球にも異常な細胞（がん細胞）が見られる、一番治療の難しい病気で予後は短いと言われました。
「予後ってなんですか」と尋ねると、「治療できる時間のこと」だと言われました。

「どれくらい生きられるのですか」と率直にたずねると「大体 1 年、ごくまれに数年生存する人がいます。ただ、今、骨髄移植という新しい治療もあるので希望をもって下さい」との答えでした。

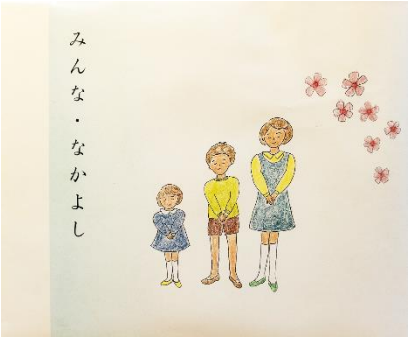
前の病院で頭が真っ白になっているとこへ、追い打ちをかけるような厳しい医師の言葉でした。
何を言われているのかよくわかりませんでした。
信じられませんでした、信じる気がしません。
そんなはずはない、新しい骨髄移植という治療で治るという希望をもちました。
医師から病名を本人に告知するかどうか聞かれました。

私は「実は妻は 2 人姉妹で、妹は 2 年前胃がんで 30 歳の若さで亡くなったので、妻が自分も血液のがんだとわかるとあまりにもショックが大きいのでふせておいてください」とお願いしました。
妻の病室へ行って、医師は「不応性貧血」と言う名の病気で、貧血の一種で、骨髄で血液をうまく作れなくなっているので、骨髄の働きをよくする治療します、治る病気だと説明しました。
これから点滴を続けますが、それは骨髄の治療薬だと妻に上手に説明してくれました。
医師はこの治療に 4 カ月入院だと説明しました。妻はショックを受けたようですが「4 カ月か、仕方がない、頑張るか」と思ったより明るい表情で、前向きにとらえていました。
また医師からこの治療の副作用として熱がでたり、髪が抜けたりすると言われましたが、妻は必ず治る病気だと信じ覚悟を決めたようでした。

≪闘病≫
治療開始して 1 週間後、 1 日から 2 日間 40 度近い高熱との闘いがありました。本人は意外とけろりとしていて、熱が下がると読書したり、編み物をしたり、習字をしたり、絵を書いたりして療養生活を辛いながらもたくさんの趣味をもって過ごしていました。

治療を 4 回（4 クール）行って 4 カ月経ち、抗がん剤が効いて寛解といって白血病細胞がほぼ見られなくなり、7 月から 1 カ月の退院が出来ました。
その間家族で温泉旅行に行ったりして、家族の時間を大切にしました。

8 月に再入院し、同じ治療を続けましたが、がん細胞が再び増えて、本人は気づきませんが、悪化の一途をたどりました。



それでも妻は必ず治るという医師の言葉を信じて、相変わらず。読書、編み物、筆で手紙を書いたり、絵を書いたり意外と楽しそうに入院生活を送っていました。
今思うと、妻は病気になっても気持ちで負けない、悲しい顔していたら、周りのひとが悲しむと自分にそう言い聞かせて、勇敢にも笑顔で病と闘ってくれていたのだと思います。
私は私で妻を何としても救いたい、命を守りたいと思い、円覚寺の薬師さんに祈り、各地の薬師さんにお参りに行きました。
川崎大師さんにもお参りしたりしていました。

さらに藁をもつかむ思いで違う病院の多くの医師に実情を訴え、別の治療方法があるかどうか探りました。
また当時骨髄移植を一番行っている名古屋の病院まで駆けつけたりして救いを求めてもがいていました。
そして、家族だけでなく親族に骨髄移植ができる同じ白血球の型を持つ人がいるか検査してもらいました。しかし見つからず失意のどん底にいました。
そんな中病室に入ると妻はいつも笑顔でむかえてくれました。逆に私のほうが励まされ救われていたのかもしれません。

≪一隅を照らす≫
伝教大師最澄の言葉に「一隅を照らす」とあります。
「一隅を照らす　此れ則ち国の宝なり（略）己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」

「今、自分のいる場所で自分が輝き、周りの人々を照らし、明るくしていく」
このような意味にとれます。
ちょっとした笑顔、ちょっとした明るい言葉が周りを明るくさせていきます。私にはできないことです。

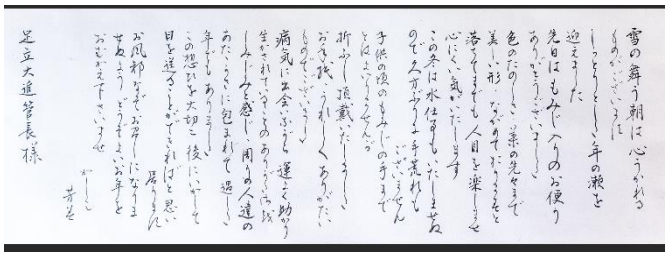
アフガニスタンで活躍されていた中村哲医師とご縁がありまして、私の寺にいらしてお話をする機会がありました、中村医師もこの「一隅を照らす」という言葉がご自分の信念だとおっしゃっていました。
余談ですが、中村医師は久々に帰国して感じたことは日本人よりアフガニスタン人のほうが目の輝きが素晴らしいとおっしゃっていました。

≪病気になっても病人にならない≫
妻はまさに病気でありながら、医師や看護師さんたちに笑顔で話しかけ、周りを明るくさせていました。
また家族を病室から電話で励ましてくれていました。

かつて夏期講座にもお呼びした登山家の田部井淳子さん、女性として初めてエベレスト登頂した方ですが、テレビでも放映されましたが、ご自身末期がんと闘いながら東日本大震災で被災した福島の高校生と共に富士登山されていました。
抗がん剤の副作用で足がしびれていても、高校生を励まし、富士登山の達成感を体験してもらおうと頑張っておられました。
田部井さんの信念に「病気になっても病人にはならない」とあります。
病気になっても病気にとらわれないというのでしょうか、妻はそんな闘病生活を送っていたと思うのです。
その後、12 月になって前管長の足立大進老師から円覚寺のもみじの葉が入ったお見舞いのお手紙を頂戴しました。

入院してから励ましのお手紙を何度もいただいていましたが、妻は感激して老師に次のような返事を書きました。
腕には抗がん剤の点滴の管が入っていました。
窓の外には雪が舞っていました。

雪の舞う朝はこころうかれるものがございます
しっとりした年の瀬を迎えました
先日はもみじ入りのお便りありがとうございました。
色のたのしさ葉の先々まで美しい形
ながめておりますと
落ちてまでも人を楽しませ心にくい気がいたします
この冬は水仕事もいたしませぬので久しぶりに手荒れもございません
子供の頃のもみじの手までとはまいりませんが
折ふし頂戴いたしましたお手紙うれしくありがたいものでした
病気に出会いながらも運よく助かり生かされていることのありがたさをしみじみ感じ
周りの人達のあたたかさに包まれて過ごした年でもありました
この思いを大切に後にいかして
日を送ることができればと思います
お風邪などお召しになりませぬよう
どうぞよいお年をおむかえ下さいませ


雪の舞う朝は心うかれる
ものでございます
しっとりとした年の瀬を
迎えました
先日はもみじ入りのお便り
ありがとうございました
色のたのしさ葉の先々まで
美しい形ながめておりますと
落ちてまでも人を楽しませ
心にくい気がいたします
この冬は水仕事もいたしませぬ
ので久しぶりに手荒れもございません
子供の頃のもみじの手までは
とはまいりませんが
折ふし頂戴いたしました
お手紙うれしくありがたい
ものでございます
病気に出会いながら運よく助かり
生かされていることのありがたさを
しみじみ感じ周りの人達の
あたたかさに包まれて過ごした
年でもありました
この想いを大切に後にいかして
日を送ることができればと思い
ます
お風邪などお召しになりませ
ぬよう どうぞよいお年を
おむかえ下さいませ
芳美
足立大進管長様

私はこの管長さんへの返事の文章を読ませてもらいまして、手紙を預かって複雑な思いで病院のポストに投函いたしました。

年末から正月にかけて１週間、医師から最後の退院だと言われ、正月を家内の実家で楽しく過ごすことができました。鶴岡八幡宮に初もうでに出かけ、妻がおみくじを引いたら小吉とでて、病のところには、今年は良くなるとあったので、妻は喜んで、今年は「絶対治るわよ」 と言い張っていました。

≪お別れ≫
2 月に入って徐々に容態が悪くなり、私は 3 歳になる末の娘を病院に連れて行きました。
妻は娘を膝にのせて、アイスクリームを食べさせて、「私は 3 人の子の母親なのだからしっかりしなくては」と話していました。そしてしばらくして妻が「結婚式で歌った高校の校歌を歌いましょう」と突然言い出し 2 人で歌いました。（高校が同じでしたので）
病室は無菌室状態の個室でしたので他人に気遣うことなく歌いました。
13 年前の結婚式の慶びを伝えたいと訴えているような気がいたしました。

そこで、私は妻に向かって、私が本山に勤められたのも、居士林の主事を務められたのも、僧堂の大接心に夜、雲水さんと一緒に坐禅できたのも、あなたが寺や家族を守っていてくれたおかげだと感謝の気持ちを述べました。すると闘病中、初めて涙を浮かべながら「あなたには本当に感謝しています」とうなずきました。

残念ながらそれからから 2 日後、2 月 27 日容態が急に悪化して妻は静かにこの世を去りました。

それから数日して葬儀が行われました。
読経が終わった後に導師をお勤めいただいた足立大進前管長さんが遺影に向かって妻のことを褒めていただきました。
その一部を紹介させていただきます。

「芳美さん、37 年の生涯は高齢化時代の今、その平均寿命の半ばにも満たない短いものであった。しかし、（略）３人の子供にも恵まれた。老僧ご夫妻、ご実家のご両親の溢れるばかりの愛情に包まれ、最後は宗憲師の介護に支えられて、治療を受けて、病と闘われた。
すべてを電話で片付けてしまう時世に、不治の病の床にあっても、流麗な毛筆の運びと、洗練された文体を以て、心の籠った手紙を書き続け、最後まで希望と夢を語りかけ、むしろ、逆に多くの人々を励まして来られた（略）芳美さんの 37 年のこの健気な一生は、類いまれなるあなたの笑顔と共に人々の心に永遠に生き続けると信じます。」
と語りかけていただきました。
ありがたいお言葉でした。
その瞬間大粒の涙があふれ出てきたことを今でも覚えています。

≪たちなおり≫
さて葬儀が終わり、納骨をすませて、半年がたっても悲しみは消えません、消えるどころか益々、出口の見えない暗いトンネルに入っていきました。
残された 3 人の子供を育てることで気は張っていましたが、気持ちは晴れませんでした。
そんな、ある日、円覚寺の年中行事の 1 つで毎年秋に行う宝物の風入れの行事のことです。
後片づけが済んで、学芸員さんなど手伝いの人達と夕食をしているとき、私が沈み込んでいると、円覚寺のある塔頭の和尚さん（その方は七歳のとき母親を亡くされて

います）が私の姿を見て「宗憲さん、生まれて幸せだよ」「生まれて幸せ」とこんな調子で励ましてくれました。
その瞬間、涙がこみ上げてきました。
この当たり前のような、単純な言葉が私には、胸に染み入るものがありました。
人として命をいただいた奇跡、この世に生まれてきたことのよろこび、亡き人も今ある人も仏様から平等に授かったのだと気づかされました。
その寿命が 5 年であろうと 30 年であろうと 60 年 90 年であろうと、みな平等にいただいている命。
なにげないこの言葉に救われました。
悲しんでいただけではだめだ、妻も精一杯人生を楽しんで生き抜いたのだ。37 年間仏様からありがたい命をいただいていたのだと考え直しました。
またそのころ私が感動した元南禅寺派管長柴山全慶老師の詩を紹介させていただきます。

花語らず

花は黙って咲き　黙って散っていく
そうしてふたたび枝には帰らない
けれども　その一時一処に
この世のすべてを託している
一輪の花の声であり　一枝の花の真である
永遠にほろびぬ生命のよろこびが
悔いなくそこに輝いている

どんな人でも「永遠にほろびぬ生命のよろこびが悔いなくそこに輝いている」のだと思います。
この詩も励みになりました。

悲しんでいるのは私だけではない、母親を亡くした子供たちは淋しい思いをしながら頑張って生きている、そして、3 年間で 2 人の娘を亡くした、妻の実家の両親も計り知れない悲しんみをもって過ごしている。父親として健康で、元気でいなくてはと思うようになりました。
生まれて初めて 41 歳で毎年健康診断を受けるようになりました。
妻の実家の両親の悲しみを考えて、末の娘を妻の実家で育ててくれるようお願いしました。
孫を育てることで、生きる望み、励みになると思ったからです。
お釈迦様は諸行無常だと悟られましたが、諸行無常だからこそ前を向いて生きなければならないと思うようになりました。

≪ボランティアの皆さまとの出会い≫
その後、妻が最初に入院したとき知り合った関さんは血液の病気に有効な治療方法、骨髄移植をするためのドナーを集めるボランティア活動をしていました。
その関さんから円覚寺でチャリティーコンサートをしたいという申し出がありました。
これには、円覚寺の住職である管長さんや長老の和尚さんの許可が必要でした。
坐禅道場も近くにあり、心配していましたが、あり難いことにご理解をいただきこの方丈で毎年四月にピアノ三重奏のコンサートを開催するようになりました。
この骨髄移植というのは、健康な人の骨髄液を患者さんに提供するのですが、白血球の型が合わなければできません。患者さんの家族（兄弟姉妹）なら合う可能性が 1/4 あるのですが、他人ですと数百から数万分の 1 という数字なので、提供者、ドナーを増やす運動が必要なのです。

このボランティアの人達は、お子さんや配偶者を血液の病気で亡くしたご遺族や闘病中の患者さんとその家族たち、一般の人達が中心となって献身的な活動をしていました。私と同じような悲しみを持った人が、ドナーを増やして、骨髄移植を望んでいる患者さんを救おうと活動していました。悲しみを乗り越えて、患者さんをサポートしたいと奮闘されていました。

まさに菩薩さまです。観音さまにも思えました。

コンサートでチェロを演奏する小澤さん、バイオリンの三戸さんは世界で活躍する音楽家ですが、友人が白血病でなんとしても救いたいとの一心で演奏してくれていました。

この人達の素晴らしい姿を見て私自身が立ち直ることができました。

≪奇跡の命≫
このボランティアの人たちのおかげで 30 年前は数千人しかいなかったドナーの数は現在、全国で 53 万人に達しました。また最近、骨髄移植と共に末梢血管細胞移植も始まり、不治の病だった白血病は今治る病気となりました。水泳選手も骨髄移植をして復活して活躍しています。

私事ですが、ご縁があってボランティアの人と再婚いたしました。子供が成人式を迎えた年でした。
その今の妻の姪が、3 歳の時から再生不良性貧血という病と闘っていました。
骨髄移植しか治る道はないと医師に宣告されました。
今の妻は必至になってドナーを募る運動をしていました。何年たってもドナーが見つからず、家族は絶望のドン底にいました。そして、姪が元気なうちにと家族で海外旅行に行くほど、ある程度、覚悟は決めていたようでした。

しかし、なんと韓国にドナーが見つかったのです。
世界中にドナーのネットワークができていましたが、世界でたった１人いたのです。観音さまが出現したのです。奇跡が起きたのです。
韓国からドナーの骨髄液を空輸して日本の病院で骨髄移植ができました。

新しい命が宿りました。姪が 12 歳の時でした。10 年間の闘病生活を終えすっかり治りました。
その後 20 年、今元気で、社会人として働いています。奇跡の命です。

本日、一番申し上げたいことは、人は奇跡で生まれ、生かされているということです。自分の命はこの広い世界で偶然にも両親が出会い、奇跡で生まれたということです。
この奇跡で生まれたことの喜び、あり難さが本当にわかれば、さまざまな人生の苦しみから乗り越えられると確信しています。

チャリティーコンサートは 27 回続いていますが、この 2 年コロナ感染によって中止されていますが、収束しましたら、また開催できると思っています。

本日は身内の事をお話しました、身内の者を褒めたたえるのは愚かなことと重々承知しておりますが、あえて今日 30 年目の命日なのでお話させていただきますが、ご容赦願います。
ご清聴ありがとうございました。

チャリティーコンサート 10 周年記念に
方丈のお庭へ植樹した紅梅

医療用ケア帽子コットンキャップ ネット販売はじめました

当会の有志メンバーが中心となり管理運営しています。生地はコットン 100％を使用。脱毛などで敏感になった肌に優しく、縫い目や折り返しがデリケートになった頭皮にやさしくフィットするように１枚ずつ手作りしています。
今必要としている方へ、安価でおしゃれな商品をお届けしたい。つらい時期を私たちが応援します！！販売価格は１枚 1,000 円+送料です。病院の売店での販売も始めました。詳しくは QR コードからネット販売のホームページをご覧ください。きっと、お気に入りの商品が見つかるはずです。事前調査でご要望の多かったキッズサイズもあります。なお、発送までに数日かかる場合もありますのであらかじめご了承ください。（中島）

HP はこちら↓

GIBUN 手作り市

４月２日、横浜市技能文化会館開催で開催され、昨年に引き続き出店しました。会員の友人からもボランティアになるならと出品があり、華やかな品揃えになりました。来場のお客さまへ売り上げが募金になるとお伝えすると、一生懸命に買う物を探してくださいました。BMT 神奈川ブースは学生時代の文化祭のように、終始明るく賑やかでした。楽しいところには自然と人が集まり、人と人の繋がりは、思いがけない明日を生む、そんな嬉しい気持ちになる、春のひとときでした。

（売上は 20,100 円で経費を差し引いた 8,700 円の利益となり、募金箱へ 3,559 円いただきました）（小石川）

お知らせ：骨髄ドナー登録説明員養成講座を開催します。詳しくは当会の HP をご覧ください。
６月 25 日(土)13:00-16:00 Zoom にて。応募締め切り６月３日。

◆登録会実施結果

実施月	開催場所(開催日)	登録/説明
R3/12月	北里大学相模原キャンパス(12/3)	12/18
	アピタ長津田店（12/3）	6/7
	滝頭小学校（12/4）	10/12
	JA さがみ茅ヶ崎支店前（12/6）	6/8
	京急横須賀中央駅前（12/12）	15/18
	平塚駅北口（12/18）	6/10
	ららぽーと海老名前（12/18）	11/14
	茅ヶ崎市役所（12/21）	8/11
	海老名市役所（12/21）	2/2
	東京農業大学厚木キャンパス（12/22）	12/15
	南足柄市役所（12/23）	8/9
	神奈川県立こども医療センター（12/24）	17/20
	ノジマモール横須賀店前（12/25）	8/9
R4/1月	ミスターマックス湘南藤沢（1/8）	10/14
	京急横須賀中央駅前（1/9）	7/7
	ノジマモール横須賀店前（1/10,22）	22/26
	横浜市庁舎（1/13,14））	11/16
	三興製鋼株式会社（1/14）	0/0
	小田原ダイナシティイースト（1/16,29）	17/23
	綾瀬市役所（1/18）	7/10
	神奈川県庁舎（1/18,19）	9/11
	座間市役所（1/19）	7/11
	ソニー(株)厚木第１TEC（1/20）	5/9
	ソニー(株)厚木第２TEC（1/20）	4/5
	相模原市役所前（1/21）	6/7
	多摩区役所（1/27）	10/10
	リドレ横須賀店前（1/30）	10/16
2月	アピタ長津田店（2/4）	9/17
	JR 鶴見駅西口フーガ前（2/5）	9/10
	三興製鋼株式会社（2/7）	1/1
	Meiji Seika ファルマ(株)（2/18）	7/8
	イトーヨーカ堂立場店前（2/20）	5/8
	麻生区役所（2/22）	6/11
3月	日本発条(株)伊勢原工場（3/2）	12/12
	海老名中央公園（3/3）	10/11
	横浜新緑総合病院（3/4）	3/3
	ノジマモール横須賀店前（3/5）	5/5
	小田原ダイナシティイースト（3/6）	14/16
	戸塚区役所（3/8）	8/13
	京急久里浜ウィング前（3/9）	9/15
	ららぽーと海老名前（3/12）	14/16
	新百合ヶ丘駅南口（3/13）	7/12
	ニッパツ三ツ沢球技場（3/13）	4/6
	平塚市役所（3/15）	8/9
	JR 鶴見駅西口フーガ前（3/19）	8/9
	京急横須賀中央駅前（3/19）	11/13
	川崎市役所第三庁舎（3/22,23）	7/8
	フレスポ小田原シティモール（3/27）	11/12
	相模原市役所前（3/30,31）	16/18
4月	アピタ長津田店(4/1)	3/5
	ノジマモール横須賀店前（4/3）	4/6
	JA さがみ茅ヶ崎支店（4/4）	3/7
	横浜市役所（4/6,7）	7/10
	小田原ダイナシティイースト（4/10）	7/10

◆献血ルーム登録数集計（R3 年 6 月～11 月 15 回）

※登録会開催日が不定期になりました

	かわさきルフロン(5 回)	横浜駅東口クロスポート(5 回)	横浜Leaf(5 回)
合計	44/57	33/47	38/53
累計(H27/5~)	727/911	791/1031	431/542

（登録数/説明数）

◆日本骨髄バンクの現況（R4 年 3 月末現在）

骨髄バンクデータ集より	全国	神奈川県
ドナー登録者数	537,820	26,832
患者登録者数	1,732※	67
移植実施数	26,503※	1,755

※海外を含む

◆ご寄付＆募金のご報告◆

みなさまありがとうございました

八谷　時子様	10,000 円
相模原橋本ロータリークラブ様	30,000 円
横浜泉ライオンズクラブ様	10,000 円
匿名	20,000 円
間島　悠介様	2,000 円
岡本　恭子様	10,000 円
イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン還付金	35,600 円
大磯ウィンドアンサンブルニューイヤーコンサート募金箱	69,847 円
4/2 GIBUN 手づくり市募金箱	3,559 円

私たちの活動は善意のご寄付で支えられています。
ご協力をお願いいたします。

＋＋寄付の振込先＋＋

◎ゆうちょ銀行から
郵便振替口座：00230-8-55751
加入者：神奈川骨髄移植を考える会

◎銀行からゆうちょ銀行へ振り込む場合
支店：〇二九(ゼロニキュウ)支店
当座　0055751
口座名：神奈川骨髄移植を考える会

本紙に掲載されている個人名や金額につきましてはご本人の承諾をいただいております。

ビル建物総合管理・施設警備
有限会社　白朝サービス社
神奈川県横須賀市汐入町 4-28
TEL：046-825-7180　FAX：046-825-7163

【はみ出し編集後記】

2 月にしては暖かに晴れた日曜、初めて円覚寺を訪れました。足を踏み入れた瞬間、圧倒される凛とした空気感。迎えてくれたのは、陽だまりでうとうとしていた猫のしーちゃん♪この風景に似合う穏やかな日が、一日も早く訪れますようにと祈り、見上げた青空にピンクの梅の花が見事でした。（原子）